



2021年12月号

ウトナイ湖通信

No.211



ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

ボランティア体験講座を開催しました

11月21日（日）に、標記のイベントを実施しました。今回は、晩秋のウトナイ湖の自然観察路を歩きながら「自然情報収集調査」を7名の方に体験いただきました。

湖にはマガンとオオハクチョウが見られ、対岸にダイサギも確認しました。林では落ち葉を拾いコナラとミズナラの違いを確認しました。アカゲラが木をつつく様子も観察できました。これらの自然情報を各自マップに記録していただき、最後に来館者に向けた「自然紹介カード」を作成いただきました。玄関から入り正面の自然情報掲示板の横にある「登録ボランティアコーナー」に、この日に見られた自然情報マップとあわせて掲示していますので、ぜひご覧ください。

ボランティア体験講座は来年2月にも開催する予定です。

出発前のレクチャー



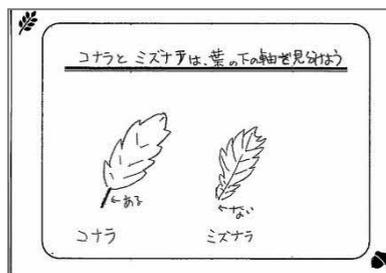
野鳥だけではなく植物も観察



湖岸から水鳥を探す



オオハクチョウとマガンが見られた



作成いただいた自然紹介カード（一部抜粋）

秋の渡りも終盤、また来年の春に会いましょう！

例年秋は、シベリアなど北から渡来するハクチョウ類、カモ類、ガン類で湖が賑わいます。今季も昨年とは大きく変わらず、9月にガン類、10月にハクチョウ類を初認（そのシーズン初めて到着を確認すること）しました。今季は最大4870羽前後のガン類が見られました。多くは本州へ渡り越冬します。また来年の春に北上してくるのを、楽しみに待ちたいですね。

◆今季の初認日◆

ヒシクイ：2021年9月9日

マガン：2021年9月15日

コハクチョウ：2021年10月3日

オオハクチョウ：2021年10月8日

昨年秋の初認日

ヒシクイ：2020/9/7 マガン：2020/9/11

コハクチョウ：2020/10/7

オオハクチョウ：2020/10/11



オジロワシに驚き一斉に飛びたつマガンの群れ



当センター前によく見られたヒシクイ

【自然観察路情報】 観察された生きもの

2021年11月17日(水) 10:00~12:00

ハシブトガラ



キバシリ



コゲラ

アカゲラ



《野鳥》シジュウカラ、ハシブトガラ、アカゲラ、コゲラ、キバシリ、エナガ、トビ、オジロワシ、ダイサギ、オオハクチョウ、ヒシクイ、マガン、マガモ、種類不明カモ類

《植物》【実】キハダ、マユミ、ツルウメモドキ、エゾノクロウメモドキ、ケヤマウコギ、カラコギカエデ、ニシキギ、ハンノキ、オオイタドリ、ガガイモ、マムシグサ

《その他》アキアカネ、メノコツチハンミョウ、種類不明ガのマユ

シロザケ(打ちあがった状態)、ドバトの羽根(猛禽類に食べられたと思われる跡)

【水鳥カウント調査結果】

2021年11月18日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類

* () 内は個体数、(+)は以上、(±)は「前後」の意味

コブハクチョウ(4羽)、オオハクチョウ(30羽)、ヨシガモ(50羽+)、ヒドリガモ(23羽+)、マガモ(64羽+)、カルガモ(2羽)、オナガガモ(2羽+)、コガモ(5羽)、カワウ(1羽)、ダイサギ(10羽)、種不明カモメ(1羽)、トビ(4羽)、オジロワシ(6羽)



オナガガモ



マガモ



ヒドリガモ



ヨシガモ



コブハクチョウ



オオハクチョウ

12月の自然予報

ウトナイ湖の結氷と野鳥たちの動きは?

ウトナイ湖は12月に入ると結氷が始まります。氷上に佇む水辺の野鳥や猛禽類、結氷したふちで採食するカモ類などの姿が楽しめるかもしれません。



オジロワシ



ダイサギ



ヒドリガモ

エナガ(亜種シマエナガ)に出合えるかもしれません

春から夏にかけての繁殖期はつがいで行動しほとんどその姿を見られなかったエナガですが、冬は群れでいることや、葉が落ちて野鳥を観察しやすくなることから、見られる頻度が高くなります。木についたクモやアブラムシ、樹液などを求めて、ウトナイ湖の林をぐるぐる回っています。当センター前の木や、バリアフリー観察路など、センター近くで見られることもことがあります。



リーリーリー、
ジュル・ジュッ、チッ



写真：野口氏提供

■エナガ(亜種シマエナガ)

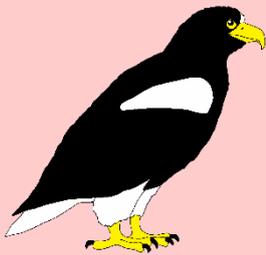
日本全国で見られるエナガだが、北海道で見られるエナガは顔に黒い線模様が入っていない亜種シマエナガ。シマは北海道のことを指す。

■エナガ(亜種エナガ)

本州で見られる亜種エナガは目の上に黒い線模様が入る。

【オオワシ】

全長 約 89~102cm。翼開長 約 220~240cm。
ロシアなどで繁殖し例年 11 月中旬頃、ウトナイ湖に渡ってくる冬鳥。成鳥は翼の前方が白く成鳥、幼鳥ともにクチバシが濃い黄色。
ウトナイ湖では、結氷した氷の上や、対岸の木にとまっていることがある。



オオワシ
(成鳥)



上空を旋回していることも

*ウトナイ湖に関するクイズ
毎月、その月に合わせたテーマで出題しています。
あなたもウトナイ博士になれる?かも。

Q.自然観察路に多く見られ、冬期に野鳥やエゾリスに人気の木があります。この木は何でしょう?

ヒント:それぞれの木で、実の形が違います。



もぐもぐするエゾリス



実はこんな形です

- (あ) コナラ (い) ハンノキ (う) ヤチダモ

答えは最後のページです。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

ミソサザイ

原因：衝突疑い



体重 7g

初診時の様子
上を向き、やや呼吸が荒かった



搬入から数時間後
容体も安定

11月4日 9:00頃、市内の企業敷地内で動けずにいたところを発見され保護。
9:30頃、市民により保護センターへ搬送される。
初診にて、明らかな外傷は認められなかったものの、やや呼吸は荒く、活発な動きが見られなかったため、安静状態にして経過観察とした。
数時間後、徐々に容体も落ちつき、十分な飛翔力も確認。
リリース 同日中にリリースにいたる。

ミソサザイ(スズメ目 ミソサザイ科) 全長11cm
雌雄同色。山地や溪流沿いの針葉樹林、針広混交林などで生息しており、地表に近い木の根元や岩の間で、昆虫類やクモ類などを捕食します。短い尾をピンと上に上げた姿勢をよくとります。体の割には音量は豊かで、木の枝や岩の上などに出てきて、大きな声でさえずります。

